

## コロナ禍におけるオンライン学修支援の実践

武 田 佳 代 (信州大学附属図書館)

濱 田 祐 次 (信州大学附属図書館農学部図書館)

信州大学附属図書館では、学生の主体的な学習を促すため、所蔵資料の紹介や学習相談対応などの学修支援を実施している。基本的な図書館利用方法や学術情報検索方法を説明する「新入生図書館利用ガイドンス」をはじめ、学習相談やレポート執筆などの学修支援を行ってきた。いずれも来館を前提とした支援であったが、コロナ禍により従来と同じ方式での実施が困難となった。本稿では、コロナ禍に対応するためにオンラインで行った学修支援について報告をする。

### 1. オンラインで利用できる情報資源についての情報提供

かねてより、附属図書館ホームページ等を活用して電子ブックや電子ジャーナル等の電子情報についての情報を提供してきたが、コロナ禍による窓口限定対応や臨時休館により、オンライン上で利用できる学術情報の需要が高まった。このため、窓口限定対応が始まった4月3日に「来館せずに利用できるオンライン資料について」<sup>1)</sup>として、電子ジャーナル・電子ブック・学術情報データベース等の利用や、それらのリモートアクセスについての情報をまとめたサイトを公開した。

また、来館して書架を眺めながら資料を探すことができなくなったため、同サイトではブクログを利用した図書紹介を行った。これまで図書館を利用したことのない1年生が利用することを想定し「学修の入門にぴったりな新書」<sup>2)</sup>「教員お薦めの本」<sup>3)</sup>「電子ブックで読める英語多読本」<sup>4)</sup>など初学者向けの6つのテーマの仮想本棚を作成した。ここでは、電子ブックでない図書の紹介も行っている。図書の場合は郵送貸出を紹介し、電子ブックの場合はアクセス方法の説明を付記した。

### 2. 新入生図書館利用ガイドンス

中央図書館では、授業「新入生ゼミナール」等において新入生図書館利用ガイドンスを実施している。2012年度以降は全学部学科の協力を得て、すべての1年生を対象に実施してきた。2020年度についても1月から受付を開始し、4月上旬からの実施に向けて準備を進めていたが、信州大学新型コロナウイルス感染症対策本部から4月2日「令和2年度の通学による授業実施延期に伴う集中対策措置について(通知)」が出され、通学による授業開始が5月11日まで延期されることになったことから、新入生図書館利用ガイドンスはオンラインで受講できるよう教材を提供するこ

ととした。もっとも早くに予定していたガイダンスが4月6日であったため、早期に公開することを重視し、4月8日に各学部へ実施方法変更を通知、4月13日にオンライン教材を公開した。

## 公開方法

これまでも、ガイダンスで使用した説明資料は信州大学のe-LearningシステムeALPS（以下、eALPS）で公開していたことから、同様にeALPSを利用することとした。全学生がアクセスできるほか、教職員も随時利用が可能である。また、小テストの受講状況や動画視聴ログの確認ができ、授業の1コマとして実施する場合の対応も可能である。

## 構成

構成は表1のとおりである。もともと予定していた内容と同じとし、情報検索実習ではeALPSの機能を利用して小テストを設けた。対面形式で実施する場合は、学部学科毎にガイダンスに利用できる時間に違いがあり、説明する内容が異なっていたが、オンライン教材を利用することにより全学生が同じ内容の説明を受けることが実現した。

表1. eALPS コース「新入生図書館利用ガイダンス」構成

内 容	掲載資料
【導入】図書館の利用について	説明スライド
【基礎】情報検索実習（レポート作成の3ステップ・OPACで図書を探す）	説明スライド 演習問題（小テスト）
【基礎】情報検索実習（OPACで雑誌を探す）	説明スライド 演習問題（小テスト）
【応用】情報検索実習（論文・雑誌記事を探す）	説明スライド 演習問題（ワークシート）
「ピアサポ@Lib」について	案内資料 レポートの書き方講座（動画）*後述
信州大学の歴史	信州大学のあゆみ（動画） 信州大学大学史資料センター企画展 「信州大学誕生」解説（動画）
図書館ツアー	館内紹介スライド
アンケート	

教材の早期公開を優先したことから、説明スライドはガイダンスで使用を予定していたパワーポイントのスライドに解説を付記することで作成した。オンライン教材は繰り返し確認できるメリットがあるが、実際に資料を手取る流れを経験することができない。自分自身で検索をしながら説明を受けることで理解が深まるため、今後も対面方式でのガイダンスを原則とするが、オンライン教材も併用することで自主学習の一助となる。説明資料を動画で提供するなど、教材改

善の余地は多分にあるので、2021年度のガイダンス実施に向けて、検討を行っている。

### 3. 中央図書館における学習支援サービス「ピアサポ@Lib」

中央図書館では、それまで実施してきた図書館における2つの学修支援サービス（ライティングセンター、ラーニングアドバイザー）を全学的な見地から見直し、2018年度から体系的な学修支援サービスである「ピアサポ@Lib（ぴあさぽ・あっと・りぶ）」の運用を開始した。ピアサポ@Lib<sup>5)</sup>は、レポート執筆支援を行う「ライティング支援部門」と各科目の学習相談に対応する「ラーニング支援部門」からなる。いずれも対面での支援を行ってきたが、以下の理由により、対面での支援が困難となった。

- 前期は講義形式の授業はオンラインで実施されることになったことから、支援を受けたい学生がキャンパスに来る機会が減少した
- 図書館への入館可能人数の制限により、支援を行う学生／支援を受けたい学生がともに自由に入館できなくなった
- 感染リスクを軽減する必要がある

このため、担当職員でオンラインを用いた支援実施方法を検討した結果、全学生がGoogleアカウントを所有していることからGoogleMeetを利用した個別支援を開始することとした。

#### 3-1. ライティング支援部門

ライティング支援部門では、1年生が受講する「教養ゼミナール」で課されるレポート課題執筆の支援を行う。教養ゼミナールの授業の一つである「大学生基礎力ゼミ」既受講者から優秀な学生を登用し、基本的な文章の作法、テーマや書くべき内容の選定・設定、パラグラフィティングの習得、引用の方法の取得等について支援を行っている。個別支援のほか、ワークショップ形式での「レポートの書き方講座」を開催している。

##### 3-1-1. ライティングアドバイザー研修

ライティング支援部門で支援を担うピアチューターをライティングアドバイザーと呼んでいる。ライティングアドバイザーの活動は、年度末の研修から始まり、新年度始めからの活動に備える。2020年度も3月30日・31日に研修を予定していたが、コロナ禍が広がりつつあったことから、急遽GoogleMeetによるオンライン研修とすることとなった。3月の研修では、レポート執筆支援のための基本スキルの習得に加えて、4月に開催を予定していたワークショップ「レポートの書き方講座」の打ち合わせを行う予定であったが、4月に大勢が参加するワークショップを開催することは困難であると判断したことから、ワークショップに代えてビデオコンテンツを制作することを決定した。これ以降もライティングアドバイザー研修はすべてオンラインで実施している。個別支援期間中は隔週で研修を行い、情報共有や対応の検討を行っている。11月には学生相談センター教員の協力を得て、特性を持った学生への対処の仕方やオンライン対応の状況も踏まえた

指導のありかたについての研修を実施した。

### 3-1-2. レポートの書き方講座

「レポートの書き方講座」は、主に6月と12月に開催していたライティングアドバイザーによるワークショップである。アカデミック・ライティングの基本を学ぶための講座で、誰でも受講することができ、中央図書館内で開催してきた。2020年度はビデオコンテンツを制作することを決定した。内容は、これまで開催してきたワークショップ形式のものを踏襲することとし、台本や撮影方法、編集はライティングアドバイザーが検討することとした。

#### <制作方針>

- ワorkshopでの開催と同じく「レポートの基礎知識」「伝わる文章を書こう」「論理的に主張を組み立てよう」「正しく引用しよう」のテーマで4本制作する
- 1本あたり10分程度にまとめる

#### <制作の流れ>

- ① ライティングアドバイザーが台本を作成
- ② 担当教員・図書館職員が内容を確認
- ③ 台本の修正
- ④ 台本に基づき、撮影・編集  
ライティングアドバイザーは自宅で各々撮影し、各人の撮影した映像を編集
- ⑤ 担当教員・図書館職員が確認
- ⑥ 動画の修正
- ⑦ e-Learningシステム上で公開

動画制作を決定した時点では、ライティングアドバイザーに動画制作経験者はおらず、制作には不安もあったが、ライティングアドバイザーが独学によって基本的な動画制作スキルを習得して実現した。各テーマ10分強の動画に仕上げた。

各テーマを順次作成し、1年生に受講が課されるeALPSのコース「新入生図書館利用ガイダンス」で公開をした。公開日とアクセス数は以下の通りである。



ビデオコンテンツ「レポートの書き方講座」の一場面

表2. 「レポートの書き方講座」ビデオコンテンツ

テーマ	時間	容量	公開日	アクセス数*
① レポートの基礎知識	12分56秒	33.6MB	2020年 5月14日	426回
② 伝わる文章を書こう	13分46秒	25.4MB	2020年 6月 5日	143回
③ 論理的に主張を組み立てよう	11分36秒	23.7MB	2020年 7月14日	93回
④ 正しく引用しよう	11分05秒	23.6MB	2020年12月 3日	15回

\*2020.12.25 現在 制作スタッフによるアクセスは除く

同じ動画を複数回視聴している学生も見受けられる。また、後期授業の開始前後にアクセス数が増えた。テーマ①～③には練習問題もつけており、自主学習の一助になったものと思われる。4本目の動画は公開が遅れたため、アクセス数は伸びていないが、早い時期に公開したテーマのアクセス数が多いことから、今後も年度始めの広報に注力し、活用を促したい。

### 3-1-3. ライティング個別支援

レポート執筆の個別支援は6月11日からオンライン（GoogleMeet）により開始した。支援を受けたい学生は、事前に専用予約フォームから相談したい内容、支援を受けたいレポートを提出する。支援時間は、当初は前年度までと同じく1回あたり15分間としたが、通信確認に時間を要する場合もあるため、10月からは20分間に変更した。

新人アドバイザーがほかのアドバイザーの支援の様子を参照するために、前期はライティングアドバイザーの居住地に近い附属図書館に出勤して複数人で勤務することとした。後期は、授業がオンラインに加えて対面で行われることが増えたことから、ライティングアドバイザーの負荷を軽減するために自宅での個別支援のための勤務を可能とした。このため、アドバイザーが相互に支援の補助を行うことが困難となったため、複数のライティングアドバイザーが同時にGoogleMeetに参加することで対応した。

オンラインでの支援のメリットは、事前にレポートを提出することで、アドバイザーが支援のための準備をすることができ、限られた時間で有効的に支援を行うことができるようになったことである。これまでは、支援時間の中で、ライティングアドバイザーは相談者のレポートに初めて目を通していたが、その時間を支援に充てることが可能となった。また、本学は8学部中4学部の学生が2年生に進級の際に他地区キャンパスに移るため、アドバイザーの担い手不足の課題もあった。オンライン支援が実現したことで、キャンパスを越えた支援が可能となり、より多くの学生の協力を得られるメリットもある。

一方で、アドバイザーからは以下の報告もある。

- 支援申込件数が少ない
- アクセス不調により支援ができない事例がある
- 画面越しに支援するため、意見を引き出しにくい

オンラインによるレポート執筆支援は、デメリットもあるものの、メリットが非常に大きいことからコロナ禍への対応としてだけでなく、新たな支援方法として継続することが必要と考えられる。広報による周知、より気軽に利用しやすくアクセス不調になりにくい方式を検討し、今後もオンラインによる支援を定着していきたいと考えている。

表3. ライティング個別支援実績 (6/11-12/28)

相談申込件数	71件
うち、指導件数	60件
キャンセル	4件
重複申込	3件
アクセス不調	1件
ラーニング支援に切替	3件

### 3-2. ラーニング支援部門

ラーニング支援部門では、ラーニングアドバイザーと呼ばれる学部4年生・大学院生が、主に1年生を対象として、自然科学系の基礎科目（数学、物理、化学、生物）、学術情報の探し方、基本的なPCスキルの相談に応じている。

2019年度は平日は毎日ラーニングアドバイザーが在席する体制を整え、計639件の学習相談に対応した。これは前年比75%増の実績であり、中央図書館で学修支援を開始した2011年度以降で最多となった。

#### 3-2-1. 前期の学習相談対応（オンライン）

4月3日からの窓口限定開館・休館を経て、5月25日から中央図書館への入館利用が可能となったが、オンライン授業が主であるのでキャンパスに来ない学生が多くいること、図書館への入館には学年や人数の制限があったことから、GoogleMeetを利用してオンライン支援を行うこととした。専用申込フォームから事前に予約することとし、申込時に相談内容を記入してもらった。準備が整った6月9日から相談対応を開始した。

ピアサポ@Libサイトでの案内のほか、各学部・全学教育機構へ学修支援サービスの周知依頼、全1年生へメールによる案内を行ったが、対応件数は伸びなかった。

#### 3-2-2. 後期の学習相談対応（オンライン・対面併用）

後期授業の開始に合わせ、前期に続いてオンラインでの学習相談対応を再開した。前期に比べて対面授業が増えたものの、1年生が毎日キャンパスにくる状況とはなっていないことからオンラインでの対応とした。しかしながら、はじめの1か月はほとんど予約が入らなかった。このため、当日の予約も可としたが、あまり増加はみられなかった。仕切板等の対面での相談対応のための準備が整った11月2日から対面での対応も可能とした。キャンパスに来ていない学生も多いため、オンラインと対面を併用して実施をした。

相談実績は表4のとおりである。

## コロナ禍におけるオンライン学修支援の実践

表4. 学習相談実績

月	相談件数 計	実施方法		相談内容							
		オンライン	対面	学習相談					レポート の書き方	PC関連	その他
				数学	物理	化学	生物	その他			
6月	8	8	—	4	0	2	1	1	0	0	0
7月	11	11	—	3	0	4	1	0	2	0	1
8月	1	1	—	0	0	1	0	0	0	0	0
10月	1	1	—	1	0	0	0	0	0	0	0
11月	8	3	5	2	3	2	0	0	0	1	0
12月	13	4	9	10	2	1	0	0	0	0	0

相談件数こそ少ないが、アドバイザーの専門外だった相談1件と不明の2件を除いては、相談したことにより問題が解消した・ある程度解消したとの回答が100%となり、成果は十分にあったといえる。また、オンラインで実施したことの効果として、キャンパスを越えた支援が実現したことがある。12月までに異なるキャンパスからの学習相談が2件あった。本取組は、主として1年生を対象としているが、2年生以上からの相談申込もある。今年度は不明の2件を除くと25%が2年生以上からの相談であった（2019年度の2年生以上からの相談は約17%）。8学部中4学部の学生が2年生に進級の際に他地区キャンパスに移る本学においては、同じ学部間での学修支援体制の構築が課題となっていたことから、今回の事例により、解決の糸口が見えた。オンラインを活用することで、同じ学部に所属するラーニングアドバイザーによる1年生への学習支援が可能となり、より早い時期から専門性に沿った支援を行う体制の構築を検討する予定である。



オンラインでの学習相談対応の様子

## 4. 農学部における学修支援サービス（オンライン・ラーニング・アドバイザー：OLA）

農学部図書館では2017年度から、館内専用デスクにおいて対面による学修支援を実施してきた。しかしながら、1年生は松本キャンパス、2年生以上は伊那キャンパスに在籍することから1年生に対する学修支援が課題となっていた。この問題を解消するため、また、オンラインツールの活用により、支援を受ける側／教える側双方の学生のICT活用を促進することを目的に、農学部梅澤公二助教を中心に学内版GPを取得し、2020年度からオンラインによる学修支援の開始を予定していた。これは、コロナ禍以前から計画していたものであり、支援を担う学生がキャンパスに來訪することができなかつたために予定より遅れたものの、6月から支援を開始した。

### 予約から相談までの流れ

学修支援を受けたい学生（以下相談者）は希望日時、相談内容等を専用の予約フォーム（Googleフォームを使用）に記入し、予約申請を行う。申請データはGoogleスプレッドシートに追記され、対応可能なアドバイザーがスプレッドシートに予約確定の記入を行う（予約状況の情報は、Googleカレンダーに自動追記される）。

予約当日、アドバイザーは図書館へ来館し、館内保管の専用機器を用いてGoogleMeetにアクセス、オンライン通信を用いて相談者の学修支援を行う。相談終了後、相談者にアンケートを依頼、アドバイザー自身も実施報告書を記入し、フィードバックを行う。（右図参照）

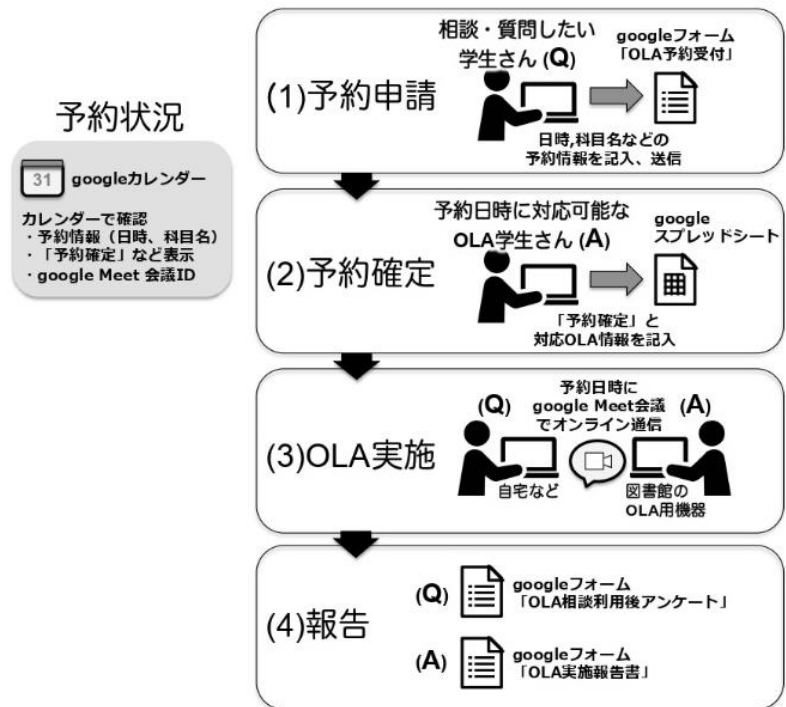


図. 予約・相談・報告の流れ

### 実績と課題

相談実績は表5のとおりである。

予約申請はすべて松本キャンパス在籍の1年生からであり、当初の課題であった「1年生に対する学修支援」に応えることができた。また、実施後の相談者のアンケート結果では、「相談・質問に対して満足いくアドバイスをもらえましたか?」という質問に対し、すべて「とても満足」との回答があった。1件あたりの相談時間は平均1時間程で、しっかりと相談できる時間が確保できていたことが、理由として考えられる。さらに、新型コロナウイルスの影響により海外から渡航できなかつた留学生への学修支援を行えたことも、オンライン実施の実績の一例として挙げられる。

ただ、学内周知メールやホームページ・SNSでの案内を通じて広報を行ったが、なかなか予約件数を伸ばすことができなかった。よりよい広報の方法、特に2年生以上の学生へのアピールについて、今後の検討が必要である。

また、予約申請件数15件のうち、実際に相談を実施することができたのは6件のみであった。

表5. オンライン・ラーニング・アドバイザー実績 (6/11-12/28)

予約申請件数	15件
※すべて1年生からの申込	
うち、実施件数	6件
キャンセル件数	9件



アドバイザーの対応時間外に予約申請があったことや、相談者が予約したことを当日忘れてしまったこと等が、予約キャンセルの原因として挙げられる。予約当日に図書館から相談者へリマインドメールを送る等の対策を行ったが、今回初めてオンライン予約制での実施のため対応に慣れていなかったこともあり、図書館側でのサポート体制が不十分であったことが反省点である。

## 5. 今後に向けて

コロナ禍をきっかけとして急遽開始することとなったオンラインによる学修支援だが、以前から必要性は認識しており、県下に複数キャンパスを有する本学においてはメリットが多い。支援件数が少ないなどの課題も多いが、広報による周知の強化、実施方法の検討・見直しを行い、対面／オンライン双方のメリットを活用して、より気軽に相談ができる体制を整え、活用される学修支援方法の検討を行っていく。

---

### 注

- 1) 来館せずに利用できるオンライン資料について（信州大学附属図書館Webサイト）  
<https://www.shinshu-u.ac.jp/institution/library/news/2020/04/remote-online-resources-during-closing.html>（参照2020-12-18）
- 2) 学修の入門にぴったりの【新書】（ブックログ）  
<https://booklog.jp/users/shinshu-shinsho>（参照2020-12-18）
- 3) 【教員お薦めの本】（ブックログ）  
<https://booklog.jp/users/shinshu103>（参照2020-12-18）
- 4) 電子ブックで読める【英語多読本】（ブックログ）  
<https://booklog.jp/users/shinshu-tadoku>（参照2020-12-18）
- 5) 信州大学附属図書館ピアサポ@Lib  
<https://www.shinshu-u.ac.jp/institution/library/peer-support/>（参照2020-12-18）